

令和 7 年度 第 1 回山梨支部評議会 議事概要

開 催 日 令和 7 年 7 月 23 日（水）14:00～15:30

開 催 場 所 山梨支部会議室

出席評議員 稲田評議員（◎：オンライン）・小澤評議員・河野評議員・中澤評議員・根津評議員・
野沢評議員・野村評議員（委任状）・豊前評議員・堀之内評議員（五十音順）
◎：議長

議 題 1. 令和 6 年度決算について
2. 令和 6 年度山梨支部事業実施結果について
3. 運営委員会等の報告について
4. その他

議 事 概 要
（主な意見等）

議題 1. 令和 6 年度決算について

資料 1、資料 2、資料 3 に基づき事務局より説明。

（事業主代表）

山梨支部の令和 6 年度保険料収入は前年度比較 6.26%増と、全国計の 3.39%増を大きく上回っているが要因は何か。

（事務局）

保険料収入の一般分については、各支部の保険料率に総報酬額を乗じた額で按分して計上している。

山梨支部では保険料率が令和 5 年度 9.67%から令和 6 年度 9.94%に引き上げられており、同率であった全国平均に比べ引き上げ幅が大きいことが、増加率が高い要因だと考えている。

（事業主代表）

準備金が 6.6 か月分積み上がっているが、どこまで積み上げればよいか目安はあるのか。

（事務局）

保険給付費が増加傾向にあるなど、協会の財政が厳しくなると予想される中で、どの程度準備金があれば良いか一概には言えない。準備金の上限の目安を示すことは難しい。

（事業主代表）

先行きが不透明な世の中で、国庫補助率が下げられないように国へ訴えていただきたい。

(学識経験者代表)

準備金はどのように運用しているのか。

(事務局)

一部を定期預金として運用している。令和 6 年度の運用収入は約 28 億 8 千万円である。準備金は今後の感染症流行などに備えるためと、中長期にわたり財政を安定させるためのものである。

(学識経験者代表)

全ての準備金を運用できないと思うが、これだけ積みあがっているのだから国債等での運用も考えてみてはいかがか。

(事務局)

ご意見として承る。

(学識経験者代表)

準備金は支部単位で管理しているのか。

(事務局)

本部で一括管理している。

(事業主代表)

資料に「2002～2008 年度 診療報酬・薬価等のマイナス改定」とあるが、診療報酬改定はいつもマイナス改定なのか。

(事務局)

必ずしもマイナス改定ではない。

(事業主代表)

準備金が右肩上がりに増えている現状からみると、「保険料を下げてほしい」という意見が出るのは仕方ないと思う。

準備金を使うのは収支が赤字になった時だと思うが、試算ではいつ赤字になる見込みか。

(事務局)

昨年 10 月の評議会でお示した、被保険者数、賃金上昇率、医療給付費の見通しを考慮した今後 10 年間のごく粗い試算では、どのパターンでも収支がマイナスに転じる見込みである。

医療給付費について、2024 年度は新型コロナの臨時特例廃止等の影響もあり、対前年度比 1.0%と低い伸び率となった。このようなことも踏まえ、改めて次回の評議会将来的な収支見通しをお示ししたい。

(事業主代表)

今後準備金が枯渇するのであれば、2040 年の団塊ジュニアの世代が 65 歳以上になるタイミング

で社会保障制度自体が危うくなるのではないか。

(事務局)

もし収支の赤字が続くようであれば、保険料率も上げざるを得ない状況になる。そうならないように、重症化予防や医療費適正化に資する取り組みを強化してまいりたい。

議題 2. 令和 6 年度山梨支部事業実施結果について

資料 4 に基づき事務局より説明。

(被保険者代表)

長年の課題であるジェネリック医薬品の使用割合が上昇していることは大変喜ばしいことである。

また、「リフィル処方箋」という制度は、薬を受け取る患者側にとって、医療機関にかかる手間が減り、大変良い制度だと感じる。子供の親に対して、また花粉症の時期などに周知してみてはどうか。

(事務局)

リフィル処方箋については、医療費適正化の観点から広報を検討していく。

しかし、医療機関の中には、毎回患者の状態をみて処方したいという意見もあり、なかなか使用が進んでいない。

議題 3. 運営委員会等の報告について

資料 5、資料 6、資料 7 に基づき事務局より説明。

特になし

議題 4. その他

(事務局)

次回評議会は 10 月の開催を予定している。後日、日程調整についてご連絡させていただく。

特記事項

傍聴者 1 名